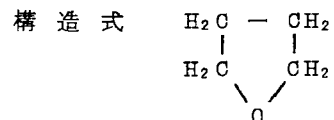


# テトラヒドロフランの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年5月17日～昭和50年6月9日
2. 試料名 テトラヒドロフラン (試料名K-91)

分子式  $C_4H_8O$



## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
 薬 発 第 6 / 5 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による  
 49基局第392号

試験期間 A) 2週間, 3週間  
 B) 2週間

試験濃度 A) 汚泥濃度 30 ppm      試料濃度 30 ppm  
 B) 汚泥濃度 100 ppm      試料濃度 30 ppm

## 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

## 3.2 酸素消費量

3.1の記録による

## 3.3 生分解試験後の直接定量法

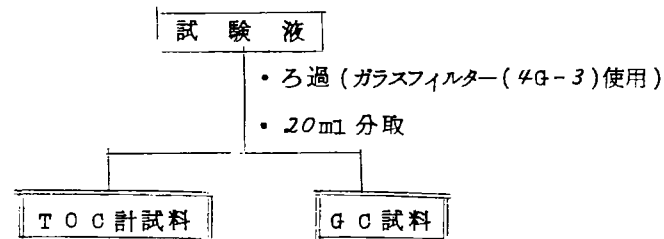
### (a) 使用分析機器

全有機炭素分析計

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(以下余白次頁に続く)

## (b) 分析試料の前処理



## (c) 分析条件

全有機炭素分析計 (TOC計)

流速 TC回路 200 ml/min

温度 TC炉 925℃

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 クロモソルブ 101

ガラスカラム 2mmφ×1m

カラム温度 160℃

(以下余白次頁に続く)

#### 4. 試験結果

A) 汚泥濃度 30ppm 試料濃度 30ppm

B) 汚泥濃度 100ppm 試料濃度 30ppm

		分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	A	100	1	—
	B	100	4	—
TOC計による結果	A	100	2	1
	B	92.6	5	3
GCによる結果	A	100	3	2
	B	100	6	4

#### 5. その他

試料K-9/Aについてクーロメーター2週間後汚泥系の一方は立上り、他の一方は立ち上らないため確認の為試験期間を3週間のばし、再試験を行った。

##### 5.1 参考試験結果

A) 汚泥濃度 30ppm 試料濃度 30ppm 試験期間 3週間

		分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	A	69.5	9	—
TOC計による結果	A	97.8	10	7
GCによる結果	A	100	11	8

以 上